

## 多摩川の名脇役

### 自然が数多く残る多摩川上流の用水堰

#### 22. 昭和用水堰 (左岸：昭島市拝島/右岸：八王子市高月町)

昭和用水堰は多摩川の河口より47.8km付近に位置する農業用水堰です。九ヶ村用水取水口から引く水の量が少なくなったことがきっかけで1933年（昭和8）に現在の場所に移動し、1955年（昭和30）にはコンクリート製の堰として改築されました。多摩川と秋川の合流点に位置する昭和用水堰は、両川から水を取り入れて昭和用水へと流し、市域の田畑を潤しています。



(左から時計回りに)

昭和用水堰（左岸）／左岸側の堰／昭和用水取水口／八高線列車衝突事故時の車輪  
／九ヶ村用水樋管跡（写真-H20.10撮影）

## 滝の渡しと筏流しー・ー・ー・ー・ー

明治40年頃の陸軍参謀本部陸地測量部発行5万分の1地形図によると、現在昭和用水堰がある辺り（多摩川と秋川の合流点）には「滝の渡し」があったという形跡があります。元々「あばれ川」の多摩川は、洪水が絶えなかったため橋を架けてもすぐに流されていました。加えて川幅も広く橋が架けにくかったこともあり、多摩川の各所で渡しが利用されていました。

また江戸時代、多摩川・秋川では、青梅や秋川谷で伐採された材木を筏に載せて江戸まで運ぶ筏流しが始まりました。筏を操る筏乗りは、途中高月や拝島などの筏宿に宿泊しながら江戸までの水路を下り、江戸に着くと材木問屋に材木と筏を引き渡して、帰りは多摩川に沿って徒歩で帰っていました。筏流しは多摩川の風物詩でしたが、鉄道やトラックでの輸送が発達した大正末期に姿を消しました。

滝の渡しがいつ廃止されたのかは不明ですが、江戸時代に渡し船が行き来していたその場所は昭和用水堰に変わり、渡しの面影はなくなりました。

## 昭和用水の前身、九ヶ村用水ー・ー・ー・ー・ー

昭和用水堰を取水口とする昭和用水はかつては拝島・田中・大神・宮沢・中神・築地・福島・郷地・柴崎（現在の立川市）の九村を灌漑する九ヶ村用水（立川堀）と呼ばれていました。九ヶ村用水の成立は比較的古く、室町時代の開削とも言われていますが、1673～80年（延宝元年～8）頃の江戸時代には完成していたと見られています。用水の延長は約8kmで、熊川村（現在の福生市）で取水された多摩川の水を拝島村のいりひ 垵樋から引き入れて九村を灌漑し、柴崎村で多摩川に戻っていました。1933年（昭和8）に昭和用水堰が現在の場所にできてからは、九ヶ村用水取水口跡が水神の碑と一緒に残されているだけです。



水神の碑

## 昭和用水堰近辺の歴史ー・ー・ー・ー・ー

1999年（平成11年）に、昭和用水堰下流にある拝島橋水道橋付近で、アケボノゾウの足跡や小象の頭部、日本最古のイヌ属の化石が発見されました。これらが発見されたのは今から約170万年前の地層からで、同様に多摩川で発見されたアキシマクジラとほぼ同時代に生息していたということが分かっています。アケボノゾウは約250万年～70万年前に生息していた日本固有のゾウで、肩までの高さが2m程度の比較的小さなゾウを指します。



拝島水道橋

また、昭和用水堰から少し下流の右岸側には「多摩川50景」の一つにも選ばれている滝山城跡があります。戦国時代に木曾義仲の子孫であり武蔵国守護代[\*2]であった大石定重が築城した日本でも有数の城跡です。はじめは定重の父、顕重あきしげによって築城された高月城（現在の八王子市高月）を本拠地にしていましたが、後北条氏[\*3]の勢力が武蔵まで拡大したことを受けて、高月城から南東へ1.5kmほどに位置する場所に滝山城を築城し、本拠を移したとされています。多摩川と秋川の合流地点から南側にある加住丘陵[\*4]を利用して築城された滝山城は、天然の要害[\*5]として関東随一の規模を誇ったそうですが、今ではその遺構の大部分を含む丘陵地帯が滝山自然公園になりました。

多摩川上流に位置する昭和用水堰付近は、川の水も美しく、河川敷には草木が生い茂り、野鳥や昆虫も数多く生息しています。また、釣りやバードウォッチングを楽しむ人々の憩いの場にもなっています。昭和用水堰下流の拝島水道橋付近も含め、この近辺の景観は「多摩川50景」にも選定されました。



昭和用水堰付近の河原

昭和用水堰	施工年月	管理者
	1933年（昭和8）3月	昭島用水土地改良区

\*1 越流水深（えつりゆうすいしん）

．．．水が堰頂部を乗り越えて流れるときの水の深さ

\*2 武蔵野国守護代（むさしのくにしゅごだい）

．．．鎌倉・室町時代に置かれた武蔵野国の守護（軍事指揮官または行政官）を補佐する役職

\*3 後北条氏（ごほうじょうし）

．．．いせもりとき ほうじょうそううん  
伊勢盛時（北条早雲）から始まった関東地方の戦国大名北条氏のこと。小田原北条氏ともいう。鎌倉幕府の執権であった北条氏と呼び方を変え、便宜上区別されている。

\*4 加住丘陵（かすみきゅうりょう）

．．．八王子市の北部に位置する秋川と浅川に挟まれた丘陵地帯。谷地川で二分され北丘陵（滝山丘陵）と南丘陵に分かれる。

\*5 要害（ようがい）

．．．敵からの攻撃を防御したり城を守備するのに適したな地形・土地のこと。城砦。